



2007年第1回札幌地区宣教司牧評議会が開催されました

2007年5月27日（日）山鼻教会において今年度の第一回宣教司牧評議会が開催されました。2006年度の活動報告・決算報告及び2007年度の活動計画・予算案が提案通り承認されました。議事については次のとおりです。

1. 報告事項

前評議会以降の活動等について事務局・委員会・部会から報告

2. 協議事項

①2006年度活動総括と活動報告及び決算報告について

②2007年度活動方針と活動計画及び予算案について

③2007年度使徒職大会について

開催日 2007年10月7日（日）

場所 藤女子大学講堂

当番 真駒内教会

④その他



2006年度札幌地区宣教司牧評議会の活動総括

評議会は、教区ビジョンである「みんなで支え合い、みんなが伝え合う・・・」ために司祭・修道者・信徒の三者が一体となって、10年間歩み続けてきた。各小教区に宣司評専用の掲示版が設置されるなど定着してきている。

前年度まで各小教区から選ばれ、毎月開催されていた幹事会が、ブロック制をもとにした「企画推進会議」に移行し、すみやかな企画・推進、実行性の向上がはかられた。しかし、地区の抱える課題への取り組みは、毎月の例会だけでは消化しきれない状態である。また、今年度から、各委員会・部会では、各小教区との連携・情報交換を目指して、各小教区からの委員・部員を加えた組織に拡大をはかったが、多人数になったことで計画や実行についての討議が困難になったと言われる。各委員会・部会の運営での工夫が求められる。

1 要理担当者養成委員会は、養成委員会の協力のもとで、「要理担当者養成講座」プレ講座のリハーサルを9月9日実施し、検討を加えた上で、11月3日「要理担当者養成講座」プレ講座を実行した。主任司祭のもとで小教区から選ばれた要理担当者および候補者66名の参加を得た。来年度予定されている「要理担当者養成講座」への前向きな姿勢が確認された。その後、要理担当者養成委員会は本講座開講について、手作りの講座を計画し、開講への準備ができた。

2 地区ブロック体制は試行からはや3年が経過し、ブロック内やブロックを越える活動や交流が行われてきている。しかし、ブロック割における地理的な問題、主任司祭の兼任などによる問題などから、隣の小教区との交流や活動にとどまっているブロックも見られる。

- 3 「使徒職大会」(10月1日)では、講演は円山教会主任司祭エミール・デュマス師に依頼した。「新しいブドウ酒、新しい革袋」と題し、司祭・信徒の高齢化、少子化の現代に於いて悲観することなく、信徒の使命、使徒職を果たす絶好の機会ととらえるべきであると説かれた。
- 4 「一日研修会」(2月12日)では、高松教区長溝部脩司教を招き、「キリシタン時代に見る信徒の役割」について、ペトロ岐部神父をはじめ殉教者187人の列福運動の責任者として語られた。殉教者は「この人しかいない。キリストしかいない。」という究極の選択、確信犯であった。私たちキリスト者は、受洗と同時に祭司職をもち、それをはたして行くことが求められている。「司祭の召命がないと嘆くよりも、自分の共同体を生き生きさせること・・自ずと召命はでる」と。ただただではいけない。私たちは行動することであり、そして、日々の生活の中で、不退転の気持ちで過ごすことを示唆された。午後の分科会にも巡回し、指導を受けた。午前の講演は、一般信徒にも公開し、300人以上の信徒が感銘を受けた。
- 5 典礼委員会は、「通夜における信徒の奉仕職」について引き続き検討中である。
- 6 平和旬間(平和講演、平和祈願ミサ、平和行進、千羽鶴の奉納)では多くの信徒の参加と協力を得た。平和行進では大通り公園で、諸キリスト教会との交流ももたれた。
- 7 2006年5月に小共同体検討作業部会は、最終報告書を提出した。地区長は、企画推進会議に、「札幌地区に合う小共同体のあり方」についての観点から、報告内容を十分に検討するよう委託した。企画推進会議は、検討結果(報告文)を2007年2月25日の評議会に報告し、その方向性について検討することになる。

2007年度札幌地区宣教司牧評議会活動方針

これまで、地区評議会は、教区ビジョンである「みんなで支え合い、みんなが伝え合う・・・」ために、司祭・修道者・信徒の三者が一体になって「福音宣教」の推進をめざしてきた。少しずつではあるが、各小教区に浸透されてきている。同時に、引き続き、地区共同体の形成のために、小教区主義を越える教会活動や意識の刷新を進める。

企画推進会議は、地区の方向性と「札幌地区あり方委員会」から提示された課題解決のため、引き続いて検討し、推進する。また、企画推進会議での検討事項や内容等の情報を適時公表し、各小教区への理解と啓発を行う。

地区におけるブロック制のあり方を検討する。

各小教区との結びつきを目指して、組織替えした各委員会・各部会における効率的な運営を検討する。

要理担当者養成委員会は、「要理担当者養成講座」のカリキュラムを作成し、開講に取り組む。

1. 基本方針

- (1) 教会共同体としての組織や活動の見直しと刷新を進める。
- (2) 自立した宣教共同体として地域社会に生きる教会をめざす。
- (3) 今後の宣教司牧体制に向けて信徒の奉仕者の養成を図る。
- (4) 司祭・修道者・信徒それぞれの役割と奉仕を通して、みんなで支え合う地区共同体づくりを進める。



2. 課題と活動

- (1) ブロック制に対応するため積極的なブロックでの取り組みの推進と、小教区共同体の運営・活動・組織の見直しを進め、地区共同体としての意識を育てる。そのために、共通する運営組織や維持体制の実現に努力する。
- (2) 各委員会・部会においては、活動内容や課題の見直しを進め、小教区の活性化に寄与できるようにする。また、各委員会・部会の組織のあり方についても検討をする。
- (3) 各小教区の司祭・修道者・信徒は「企画推進会議」を核にして検討・分析される課題や問題、その解決のための具体的な研修、養成等に、積極的に参加し、係わる。
- (4) 今後の宣教司牧体制に向けて、引き続き機動力・実行力・推進力をもつ組織への見直しを継続する。
- (5) 要理担当者養成委員会は、4月から毎月「要理担当者養成講座」を開催する。
- (6) 典礼委員会に付託した「通夜における信徒の奉仕職」について、どう取り組むかを改めて検討する。
- (7) 今年度も平和旬間を実施し、また、地区使徒職大会を10月7日（日）に開催する。詳細は各実行委員会で検討される。
- (8) 地区宣教司牧評議会として司祭・評議員・小教区の役員などを対象に、一日研修会を実施する。
- (9) ペトロ岐部神父と187人の殉教者の列福を記念する行事を行う。

2007年度 各委員会 各部会の活動計画

1. 企画推進会議

- 1) 「札幌地区あり方委員会」から提示された課題解決のために、継続して取り組む
- 2) ブロック制への対応や今後の司牧体制に向けて、組織の見直しを継続する
- 3) 地区宣教司牧評議会として司祭・評議員・小教区の役員を対象に、一日研修会を実施する。

2. 典礼委員会

- 1) 典礼講演会、研修会の開催
- 2) 使徒職大会ほか、地区行事の典礼部門への奉仕、参加
- 3) 企画推進会議から付託された事項の検討
- 4) 委員会の開催

3. 養成委員会（養成常任委員会）

札幌地区宣教司牧評議会にて取り上げられた養成活動に関する優先的な事項について、その解決と実現に向け取り組む。

- 1) 他の委員会・部会と連携・調整しながら、養成活動の見直しと推進
- 2) 養成研修会の開催
- 3) 全国研修（大阪教区生涯養成研修）への受講者の選考派遣
- 4) その他、札幌地区の信徒の生涯養成に関する事項

4. 子どもの信仰部会

1) 中学生のつどい

テーマ「キリストの弟子」

（小教区では中学生対象のものの企画・実施が難しいということから地区で主催）

1回目 5月19日（土）10時～15時半

北26条教会

2回目 8月8日（水）～11日（土）3泊4日

江差教会

3回目 11月10日（土）円山教会

2) 研修会

（リーダーに限らず、子どもの信仰教育に関心のあるすべての方を対象に）

2月16日（土） テーマ「堅信」

講師 Fr 白浜（福岡）

3) リーダー研修会

（各教会の教会学校を参観し、リーダー間の情報交換と研修）

1回目 6月 月寒教会

2回目 9月 手稲教会

3回目 1月 山鼻教会

5. 青少年部会

～別掲8ページ～

6. 家庭部会

はじめに

4月15日(日)に2007年度家庭部会の準備のための最初の集まりをもち、今後のことについて、次のように決めました。

1) 7月15日(日)

例会 この後、随時、予定しています

2) 8月26日(日)

講演会 「家庭生活と祈り」

講師 エミール・デュマス師(円山教会主任司祭)

場所 山鼻教会

3) 今後の予定

11月、'08年2月 講演会を実施します

7. 高齢者部会

1) 巡礼

とき 2007年6月6日(水)

8:30~17:30

ところ 伊達市カルメル修道会

参加人数 100~120名(大型バス4台)

参加費 700円(昼食各自持参)

2) 高齢者交流会

とき 2007年9月17日(月・敬老の日)

10:00~15:00

ところ 山鼻教会

講師 谷内 武雄師(山鼻教会主任司祭)

日程 敬老ミサ、第1講話、第2講話、
分かち合い

参加人数 100名 参加費未定(昼食付)

テーマ未定

8. 要理担当者養成委員会

1) 会議は随時開催(講座の反省と計画、次年度について)

2) 要理担当者養成講座の開講

2007年4月28日から年間12講座を予定

9. 社会委員会

1) 委員会例会 毎月1回 第2火曜日

2) 現地見学(10月)、研修会または講演会(未定)

3) ガリラヤ通信 3回(26~28号)発行予定

平和旬間実行委員会

平和を祈る40日間(7月7日から8月15日)として取り組む。

5月~8月の社会委員会例会と合同で。

1 他団体主催の行事への参加呼びかけ

7月7日(土)

7.7平和集会 かでる2・7 18時

講師 山口 朗氏(明治大学教授)

7月16日(月・海の日)

ビデオ学習「レーン・宮沢事件を検証する」

円山教会 10時 札幌正義と平和委員会主催

2 平和講演

8月11日(土) 15時~17時 北1条教会

講師 谷 大二 司教(さいたま司教区長)

(日本カトリック難民移住移動者委員会委員長)

題 「信教の自由と政教分離」

3 平和祈願ミサ

8月15日(水) 18時~19時 北1条教会

司式 札幌司教区長 ペトロ 地主敏夫司教
司祭団

折り鶴奉納

4 平和行進 ミサ後 19時20分から20時15分

北1条教会(中央体育館)から大通公園3丁目
までキャンドル行進

プロテスタントの皆さんとの祈りの交流(未定)

5 主日ミサでの「共同祈願」のお願い(6回)と
「平和の鐘」のおすすめ。

8月6日 8時15分、8月9日 11時2分、

8月15日 12時

~平和のために働く人は幸い~

平和旬間のための青年ボランティア募集

7/7~8/15

「平和について考え、学び、祈り、そして行動する40日間」(平和旬間)

実行委員会では、準備を一緒に担ってくれる青年ボランティアを募っています!

準備会や行事への企画・推進・参加をお願いします。

詳細は、小教区掲示のポスターをご覧ください。

<平和旬間実行委員会>

今後の主なスケジュール

7月4日	事務局会議（ベネディクトハウス）	9月5日	事務局会議（ベネディクトハウス）
7月15日	使徒職大会実行委員会2（真駒内）	9月	企画推進会議
7月	企画推進会議	9月	要理委員会
7月	要理委員会	9月16日	第3回評議会（北26条）
7月21日 ～22日	要理担当者養成講座5（花川セミナーハウス）	9月23日	国際デー（北1条）
7月22日	第2回評議会（北11条）	9月29日	要理担当者養成講座7（月寒）
8月8日	事務局会議（ベネディクトハウス）	10月3日	事務局会議（ベネディクトハウス）
8月11日	平和講演会（北1条）	10月6日	使徒職大会準備
8月12日	使徒職大会実行委員会3（真駒内）	10月7日	使徒職大会（藤学園）
8月15日	平和祈願ミサ・平和行進（北1条）	10月	企画推進会議
8月	企画推進会議	10月	要理委員会
8月25日	要理担当者養成講座6（月寒）	10月21日	市内合同墓参
		10月27日	要理担当者養成講座8（月寒）

巡 礼 伊達カルメル修道会

高齢者部会 豊澤 隆史

高齢者部会恒例の巡礼に参加。札幌地区10小教区134名を乗せた4台のバスはうす曇りの空のもと、お昼まえに、目的地の伊達カルメル修道会、イエスの聖テレジア修道院に到着した。修道女とお世話くださる方々の出迎えを受け、聖堂へ案内され、そこで、谷内神父司式でミサが始まった。静かにお告げの鐘が鳴り渡るなか、参加者全員で、巡礼にお招きくださった主に賛美と感謝の祈りをささげた。



前庭のあちらこちらに置かれた蚊取り線香のそばに、三々五々散らばっての昼食の準備の

さなか、いくつもの容器が運ばれてきた。卵スープを用意してくださっていたのだ。気温が下がるので暖かいものを、とのお気遣いで、まさに心まで温まる絶品であった。続いて、皿に山盛りのクッキー、そしてお茶と、思いもかけないサービスを受け、ただただ、恐縮。

院長様にお目にかかった際、「昨夜から今朝にかけて、雷雨でした。皆さんが天気を持って来てくださいました」とおっしゃっておられたが、なんと私

達が帰途についた後、また雷雨に見まわれた由、すべてがラッキーだった。

修道女の姿は勿論見えなかったが、世俗（物欲）を離れ、祈りの日々をおくり、外来者を心からもてなすことによって、主イエスと係わろうとする真摯なお姿が想像でき、「御言葉を行う人になりなさい」（ヤコブ書）を思い出した。これは、まさに「言行一致」でいなさいということだと思うが、「私は言行不一致」という認識があってこそ初めて「言行一致」にいたるものであり、パウロの「信仰によって義とされる」を曲解した、信仰さえあれば何もなくてよい（まさに今の私達の教会）と考える人たちを烈しく責めたものだと思う。日々の生活の中で、み言葉を実践されている修道者の姿勢に触れることができ、主イエスに感謝しようと思う。



王であるキリスト

カトリック小野幌教会の紹介



住 所 札幌市厚別区厚別東 4 条 4 丁目 5-2
TEL898-2626

交通機関 地下鉄「新札幌」から徒歩20分
バス江別、大麻方面行き「南小野幌」
下車、徒歩5分（ホームック裏通り）

主任司祭 近藤光彦神父

歴 史 1967年 札幌市東部開発計画策定。
1970年 当時の富沢司教、厚別地区に教会設立を決断。
1973年 三菱地所より土地取得。
（社長夫人がイグナチオ教会の信徒）
1975年 11月23日献堂式
創立時の信徒数122名
1978年 虹の森カトリック幼稚園開設
1980年 新聖堂献堂式。信徒数214名

創立当時、主として月寒教会、大麻教会所属の厚別地区在住の信徒でスタートしました。

その後厚別地区の開発の進展とともに信徒数も増加となり2006年末現在526名となりました。

★ 宣司評との関わり（東ブロック）

ブロック制度が試行された段階より、ブロック参加の各小教区と連携を取り、会場を順送りにしながら、3ヶ月に1回定期的な会合を重ねています。

今後は一層討議の内容を深め、意義ある組織とするよう努力を重ねて行きたい。

★ 要理指導実践

2006年1月より、主任司祭の委託をうけて主日のミサ後に要理指導を信徒が担当しています。

要理指導者養成委員会での検討事項を踏まえて、慎重に指導を続けています。

要理指導希望の内1名は、所定のコースを終え、主任司祭の最終指導を受けた後、今年のクリスマスに受洗。現在13名の方が指導を受けています。

★ ミサ時間・学びの会のご案内

ミ サ 日曜日 午前9時30分
平 日 午前7時

（但し木曜日午後7時）

第1 金曜日 午前10時

学びの会 信仰入門のために 水曜日 午前10時
聖書に親しむ集い 木曜日 午前10時

★ 小野幌教会での信徒の活動

◆ 執行機関（運営委員会）

運営委員長 副委員長 総務部 会計監査

各部（財政部・広報部・社会奉仕部・建物維持管理部・典礼部・養成部）中高生会 青年会
宣教司牧評議委員 各地区集会代表

◆ 執行機関とは別に葬儀班、手話の会、語ろう会（分ち合いの会）などがあります。

★ 小野幌教会の地区集会

小野幌では3年前から家庭集会を5地区に分け、第2日曜日にミサ後地区集会を行い、祈り・分ち合い・信徒どうしのつながりを深めています。

地区集会の役割として、1つの地区から役員、地区代表、バザー委員を選出しています。また、運営委員会で諮られるいろいろな問題を地区で話し合い、その結果を運営委員会で採決しています。



…地区集会の様子です…

この地区集会を主にして全体ではバザー、各地区では、お祝い事などの行事を順番に行っています。

しかし3年行ってみて、高齢化や働き人不足などで、役員などを選出できない地区も出てきており、今年5地区を4地区に見直しました。

でも、毎月地区集会を行っていると、病気の方や、なかなか教会に来られない方などの近況や情報が細やかにされ、地区ならではの配慮ができるようになりました。

★ 葬儀班とは

2002年に立ち上げ、常任8名で葬儀の円滑な運営に携わっています。

運営委員会とは別枠で司祭直属の班です。司祭から訃報の連絡が入ると遺族との打合せに立会い、意向に沿った段取りを決め地区の方の協力を求めます。

葬儀班の設置目的は、

- 1 遺族にお慰めと必要事項のアドバイスを。早期のうちに弔問に伺っています。
- 2 葬儀のお手伝いを迅速に対応できるように常任として熟練していく。
- 3 葬儀費用の節減を検討していく。

葬儀社との折衝を重ね3ケースの選択肢が出来上がった。

- ① 従来の葬儀社主体の葬儀
- ② 小野幌教会独自の型の葬儀
- ③ ご遺族の希望に沿った型の葬儀

葬儀班とお手伝いの方も奉仕の形でお願いしています。

葬儀の型が多様化している現在、それに対応できるように考察を重ねたいと思っています。

★ 各部より

小野幌では7つの部があり活動しています。

◆広報部

小野幌の広報は「森の声」という名称で教会献堂から今日まで、手作りで発行してきました。2007年3月末で355号になります。

◆社会奉仕部

当教会では1988年以来、淳心会のギド神父様が司牧されているフィリピン、マニラのマブティンパストール教会と、高校生への奨学金の支援及び、高校生、大学生を中心に教会の訪問やホームステイ等の現地交流を続けてきました。

奨学金は毎年15万円、教会のバザーの益金、コーヒーショップの売上、チャリティコンサートなどから資金を作っています。現地交流はこれまでに8回行われています。特に今年は新しい試みとして、教区主催の青少年フィリピンエクスポージャーの一環として計画され、1月4日～10日まで上杉神父様を団長に参加者が18名という大規模で現地交流が行われました。

豊かな日本で育った青少年たちが、フィリピンでの交流を通じて多くの賜物をいただいているように思います。今後も当教会の活動の柱として継続する予定です。

今回の当教会の参加者の感想文を紹介します。



…フィリピンにて…

……日本の戦争、フィリピンの戦争……

横田 基

1月4日から10日までのフィリピンのホームステイで、僕はとても重い体験をしてきたと思う。それは現地の子供達と話をした時の体験した事だ。

ホームステイ最終日、僕は現地の子供達と遊んでいた。その時僕はその子達にフィリピンはどうだったかと聞かれた。僕はみんな自分達に優しくしてくれてとても良かったと言った。そして僕はふと日本をどう思うかと聞いてみた。するとその子達はこんな話をしてくれた。

日本は昔戦争でフィリピンに攻め込んできてマニラを侵略した。そして沢山の人を殺した。でも今はフィリピンから働きに日本へ行ったりしているから感謝している。

僕はとてもショックだった。自分と同年齢もしくはそれ以下の子が日本の第一印象が戦争と言った。それ以上にそれを知らない自分にショックを受け、とても恥ずかしくなった。

そういった歴史は学校で学ぶのだろう。被害を受けた国の人は知っているが被害を与えた国の人が何も知らない…いったい日本はどのくらいの国に戦争で被害を与えたのだろうか。そしてその中のどのくらいが伝えられずに忘れられてしまうのだろうか。そう考えると日本とはずいぶんおかしな国だと思った。そういえば日本には特攻隊や原爆の話は沢山あるが、外国に与えた被害の話はあまりない。もちろん特攻隊や原爆の話も大事だが、この事こそ伝えられるべきだと思う。これを教えない事はした事に知らん顔をするようなものであり、それは国として無責任で、子供のように幼稚だと思う。だから僕はまわりの人達だけにでもこの事を伝えていきたい。

この体験を決して無駄にしないように。

(文責一水上、河岡、廣瀬、稲川)

札幌地区の希望 若者たちの活躍

～青少年部会報告～

〈2007年度 青少年部会の活動計画〉

- ▼高校生の活動
 - 5月19日 第一回 信仰養成の集い (月寒教会)
 - 6月16日 カトリック高校生の会 (月寒教会)
 - 7月7日 第二回 信仰養成の集い 16時～20時 (北26条)
 - 8月2日 夏のキャンプ (留萌市神居岩キャンプ場)
 - 3月 練成会
- ▼青年の活動
 - 5月12日 札幌地区青年ミサ (合宿) (月寒教会)
 - 6月12日 青年ミサ(合宿)地区青年のグループ作り (旭川神居教会)
 - 6月23日 スポーツ大会(合宿) 13時～ (月寒教会)
 - 8月 テゼの集い 18時～ (聖公会聖堂)
 - 8月 青年連絡会(全道)
 - 9月 青年ミサ(函館で開催予定)
 - 9月24日 全道青年の集い(留萌教会)
 - 9月26日 ネットワークミーティング協議会 (多治見市)
- ▼高校生エクスポートジャ
 - 5月19日 フィリピンエクスポートジャの集い(合宿) (働く人の家)
 - 6月16日 フィリピンエクスポートジャの集い(合宿) (働く人の家)
 - 1月 勉強会 佐藤宝倉神父様を囲んでエクスポートジャ(検討中)
- ▼青年エクスポートジャ
 - 3月 沖縄エクスポートジャ(9名参加)
 - 4月 沖縄エクスポートジャ 報告会
 - 3月 エクスポートジャ(検討中)
- ▼JOC
 - 4月22日 「働く人の家」総会 (活動報告・交流)
 - 5月30日 ミニセミナー「働きたい」
 - 9月15日 全国JOCデー in 札幌 (札幌主催)
 - 9月17日 就職と労働条件 (働く人の家)

高校生の活動

高校生の信仰養成の集いについて

青少年部会 十川 幸重
(北11条教会所属)

青少年部会では、担当司祭の上杉神父様、エムリク神父様のご指導で、高校生の信仰育成のための活動を行っています。もとは、エムリク神父様・エミール神父様を中心に、有志で行われてきた「高校生の信仰養成プロジェクト」を、青少年部会の活動として行うことになったものです。

札幌市内の多くの小教区では、高校生会が無く、高校生が集まる機会が少ないのが現状です。そのような高校生達の信仰教育と仲間づくりの場を提供し、各小教区での高校生育成活動の補充ができるように、そして、やがては高校生自身がこの会を自主的に作り出していければよい、また、現在行われている「カト高」などとも連携していけるようになればよい、との神父様のお考えに賛同し、現在はFM Mのシスターと、小教区の信徒5名程が主に企画・

運営をお手伝いしています。

第1回高校生の信仰養成の集いは5月19日、月寒教会で「みことばに親しむ」というテーマで行われ、5名の高校生が参加してくれました。

シスターのご指導で、聖書を開く練習からはじまり、福音と使徒言行録を読み比べ、同じ内容と思われるところを探し、そこから何が読みとれるか、を考えました。

聖堂での祈りでは、上杉神父様の導きにより、各自の思いをイエス様への祈りの手紙として、自由に模造紙に書きました。

祈りの最後には、エムリク神父様が復活のロウソクから火をともした小さなロウソクを、ひとりひとりに手渡してくださり、それに、各自で「あなたがたは、これらのことの証人となる」と書き込みをしました。

また、夕食をとりながら森田神父様が、ご自分の召命についてのお話をして下さいました。

参加してくれた高校生達は、緊張している様子も少しありましたが、今回参加しての感想を聞いたと

ころ、「親や教会の人にすすめられて来たが、自分でも来てみたいと思っていた」「参加してよかった」などの声もありました。

今回のスタッフの反省として、参加者同志の交流が少なかったということがあげられました。次回は、参加者同志が話し合える内容（ロールプレイ形式、食事を一緒に作るなど）で行いたいと考えています。

また、もっとたくさんの高校生に集まってもらうために、どうしたらよいか考え、高校生に近い方（カト高卒業生など）から誘ってもらうよう、協力を依頼しています。

現在のところ、集まりは2カ月に1回程度で行う予定ですが、次回は7月7日、北26条教会で行います。この「ともに」をご覧になった方が、お子さんや知り合いの高校生に声をかけて下さると、たいへんうれしいです。

高校生の心はとても素直です。今回も、後片付けや皿洗いなどを積極的に手伝ってくれ、高校生達のやさしい心にふれることができました。今のこの時期に、素直な心でイエス様のことをもっと知ることができたら、また同じ信仰を持つ仲間と出会うことができたら…と、強く感じました。

第2回

高校生の信仰養成の集い

テーマ：「私もイエスの弟子？」

と き：7月7日（土）PM4～8時

と ころ：カトリック北26条教会

対 象：札幌地区の各小教区に所属している高校生とその友人

〈プログラム〉

- pm 4：00～4：30 —— 交わり
- pm 4：30～5：30 —— ロールプレイ
- pm 5：30～6：00 —— 祈り
- pm 6：00～8：00 —— 夕食・ハッピーアワー

青年の活動

北26条教会 深澤 素英

5月12日、月寒教会にて『青年ミサ』が開催されました。

小教区教会の枠を超えて青年達が自然と集まれる場を作りたいということをきっかけに数名の有志青年が話し合いを進め、ミサを中心とした集い『青年ミサ』が企画されました。

第1回目となる今回の集いには、札幌をはじめ、遠く稚内、旭川、留萌、小樽からの青年や、教会に初めて足を踏み入れた青年も含め22人が集まりました。

開始して早速、札幌教区・札幌地区青少年担当司祭である上杉神父様お手製のスパゲティで夕食を囲みました。続いて自己紹介ゲームで親睦を深め、セッションではコンセンサスゲームを行いました。このゲームはグループ内で意見の合意を築いていくものです。お互いの「価値観」の相違をお互いが気づけずに意見の食い違いがある状態から、いかにして互いの発言を傾聴し、互いの違いを承認して意見を合意させていくかが大きな学びになりました。

ミサでは聖書朗読（ヨハネ14.23・29）をした後に、各自が心に残った言葉をあげて互いに分かち合いを行い、キリストへの信仰を深め、福音を生きることを励ましあうことができました。

『青年ミサ』は今後も定期的に（月に1回程度）開催される予定です。



久しぶりの青年ミサ

花川教会 岡澤まどか

先月12日、月寒教会にて青年ミサが行われました。思っていたよりもアットホームな感じでリラックスして参加できました。歳の違う青年達との話し合いは私にとってめったにない体験でしたし、様々な意見を聞くことで私自身、勉強になりました。

12日夕方から分かち合いが始まりました。自己紹介をかねたゲームをし、みんなが打ち解けた後、コンセンサスゲームをしました。コンセンサスゲームでは1つの「物語」に対しての自分の意見を言い合い、それをグループで1つにまとめるということをしました。様々な人の意見を聞き、その中で自分の意見を変えたり、相手を説得させるためにはどのようにしたらよいか模索し、考えました。

9時頃から青年ミサが上杉神父様司式のもと始まりました。小聖堂で行われ、いつもより神父様や、みんなとの距離が近く、新鮮であたたかい雰囲気でした。ミサの中で、聖書の箇所が一番印象に残ったところを、同じ箇所を選んだもの同士で集まって、なぜそこが印象的だったのかを言い合うということをしました。私は、「聖霊となってあなた方に伝える…」という所を選びました。神様という存在が見えなくても信仰が私たちを支えているという意味にひかれました。今まで聖書の箇所一つ一つについて考えたことはありませんでした。文章一つ一つに意味があり、それが私たちの心の支えとなっていることに気づきました。翌日、月寒教会のミサに参加し、改めてその聖書の箇所を聞きました。前日に話し合ったことや自分の考えが思い返されました。

今回新しい形の青年ミサに参加して、聖書は私たちの心の支えであり、またどんな小さな一文でも大きな意味があることを知りました。「聖書の意味」について深く考えることができ、よかったと思いま

す。また、自分より考え方の深い意見を聞くことで自分の考えの小ささに気づかされた面もありました。これからの生活に生かせればと思います。最後に、実行委員の方、本当にありがとうございました。

「友人（ともんちゅう）

一度会うたは、ずっと友達さあ」

6月2日(土)旭川神居カトリックセンターにて、旭川地区青年ミサが行われました。教区青年同士が知り合うきっかけの場として集まれる機会を作り、繋がりを強めることを目的としています。

青年ミサに参加して

旭川大町教会 巻島祐次郎

札幌教区の皆さん、こんにちは。

今回、青年ミサ in 旭川に参加しました、旭川大町教会の巻島です。今活動の感想を少ない時間ですが、話したいと思います。

始めに、私がこの活動に参加するきっかけとなったのは、今回の代表・筒井貴久君に、活動の手伝いをして欲しいと頼まれた事が始まりでした。

私は現在、公私共に多忙な時を過ごしていて、とても青年の活動に時間を割く余裕などありませんでした。しかし、今まで青年活動を始めようとしている若者達に、少しでも手助けが出来れば、と、また、当日参加してくれるであろう青年達に会える事を楽しみに、今回無理をして活動に参加をしました。結論、無理をして参加して良かったです。

活動では、ホームルームワークで、ホスチア作り・シークレットアドレス・青年ミサ地図作りなど、少ない時間の中で参加者全員でワイワイガヤガヤと作業を進めていきました。

青年ミサでは、復活のローソクから参加者一人一

人に手渡されたローソクに灯火をつけて、ローソクの光だけでミサを行いました。準備の段階で、ミサは暗いと予測して懐中電灯を用意していましたが、1本のローソクの明るさは私達の想像を超えるものでした。

更に、聖歌もサンプルに楽器演奏などを無しにして、アカペラで歌いました。ローソクの明かりとみんなの歌声で、とても幻想的で静かにゆっくりとした祈りの時間を過ごす事が出来ました。



今、活動を通して参加してくれた青年達・神父様・参加できなかった青年、それぞれの聖霊の力が働き、静かに青年ミサを終える事が出来た事に感謝したいと思います。

最後に、今活動を通して感じた事を3つ話して終わりたいと思います。

1、どんなに忙しくても、そこであきらめる決断をしない事。忙しいを理由にしていると、多くの

チャンスを逃してしまう。

2、ハイテクノロジーの時代でも、人の気持ちは面と向かってインターフェイスで話さないと通じ合わない事。

たくさんの時間と労力をかけて集まった所には必ず、イエス様の存在を感じる。

3、どんな小さい事でも、周囲には大きな影響がある事。今回の活動は、札幌地区の活動が“飛び火”したものの、札幌地区から旭川地区へ・年寄りの青年から・若い青年達へ活動の光がリレーされた。

これからは、それぞれの青年達の小さな活動の光がリレーされて、やがて北海道中の大地が、その活動の光でキラキラと明るく光り輝く事が出来たらいいと思います。

青少年部会担当者より

青少年部会の役割は今のところ高校生・青年の活動のマネジメント（裏方さん）です。彼らが動きやすいように、宣司評と調整していこうと思います。

活動の範囲がひろがり、スタッフが必要とされていますので、年齢に関係なく、関心のある方は部会に参加をお願いします。



フィリピンエクスポージャー報告

小野幌教会 益田 英子《引率者》

1月4日～10日まで、上杉神父団長以下総勢18名でフィリピンのケソン市にあるマブティンパストール小教区を訪れました。ここは、小野幌教会が、20年間、奨学金援助と交流を深めてきた姉妹教区でもあります。この小教区は、1986年のマルコス政権が崩壊した時、時の大統領コリーアキノより、スクワッター達（ホームレス）にわりあてられた土地の一部でCICM（淳心会）のギド神父を中心にBCC（基礎キリスト共同体）活動が進められている地域でもあります。教会と信徒が協力して、街づくりがやり、約20年が経過しました。今回エクスポージャーのプログラムとして、道内各地の教会の青年達と共にこの地を訪問できたことは、大変意義のある嬉しいことでした。



滞在中は、住民達の協力で、上杉神父をはじめ青年達と共に私もホームステイを体験しました。ホームステイといっても余分の部屋があつてのことではありません。各家庭で事情は違うとはいえ、狭い部屋に大家族でごろ寝ということも珍しくありません。あまりに日本と違う生活環境に最初は青年達はとまどい、カルチャーショックをうけているようでした。でも人々のとびっきり暖かいホスピタリティに触れ、だんだんみんなの表情が豊かになってくるのがはっきり感じられました。いいことばかりでもありませんでした。住民の中には、日本に来て大変つらい思いをした人もいたようで、日本語で、日本の学生にあたる人もいたようです。また戦争の傷跡にも触れる機会がありました。いずれも青年達には、初めて体験することでショッキングなことのようでしたが、これも事実のひとつ、大変いい勉強ができました。短い期間でしたが、いろいろなことが凝縮された感動と汗の一週間でした。滞在中は、神父様を中心に毎日ミーティングが開かれました。出発までは知らないもの同士がここではすでに心を割った仲間です。帰国後も、二ヶ月に一度、勉強会に集まっています。皆様の祈りの中で、フィリピンでのエクスポージャー（実をさらす）が大変実りの多いものでありましたことを感謝いたします。



全道カトリック高校生 夏キャンプ参加のおさそい

テーマ：心で、体で、神様に触れよう

日程：8月2日（木）～4日（土） 2泊3日
場所：神居岩グリーンスポーツキャンプ場（留萌市神居岩）
集合場所：北26条教会（10：30）

対象：高校1～3年生（信者・未信者は問いません）
参加費：6000円
締切：7月13日（金）必着

♪詳細は小教区の担当者もしくは小教区掲示のポスターをご覧ください。

編集後記

花咲く季節から緑豊かな、さわやかな夏が到来しました。

今月はフィリピンエクスポージャーに参加して報告を載せて下さった方々の文面から、フィリピンの人達のあたたかさ、そして毎日の生活の中で共に「支えあう」「祈りあう」ことを大切にしている事を感じとった次第です。（N・T）